

上総七里法華(三)

No.391

上総七里法華については、平成二十五年から翌年にかけて二回、本欄にその概略を記載したところですが、このたび令和八年三月に「茂原市史資料編Ⅱ(中世)」が刊行され、上総七里法華関係の拙稿も掲載されました。今回は、それに関連して諸書に見える七里法華について記述する所存です。

一 七里法華の名称の起源

「上総国笠森観音縁起全」と題する古記録が、現在国立公文書館に所蔵されています。

この縁起は、長南町の笠森寺が元禄元年(一六八八年)に江戸幕府に提出したものと考えられ、その中には、元龜二年(一五七二年)に笠森寺の住職を務めていた行讀(註)が長南城主武田豊信に提出したとされる日蓮上人並びに七里法華に関する記述があります。すなわち、「知る所ただちに五里ほどの民家みな此題目を尊み侍る、当山にて唱え初めけるに依て笠森の里より東金のうらまで是を世の諺に上総の七里法華とはいへり

ける」と記されています。

これについては、七里法華とは、現在の長生郡・山武郡を中心とする凡そ七里四方の範囲内に広義の日蓮宗寺院が集中して存在していることを指すものであり、その定義とは異なりますが、名称としては管見の限り初出のものです。

(註) 行讀は笠森寺第四十七世であり、天正十九年(一五九一年)五月七日に没している。またその位牌も現存している。

二 七里法華の波紋

茂原市北塚の矢部家所蔵の「龍鑑寺縁起」には、延徳年中(一四九〇年頃)日泰の帰伏により、日明が真言宗から法華宗日什門流(顕本法華宗)に改め、真言宗時代の仏像・経文・仏具・書物等を残らず末寺の頭である長南郷の法音寺(報恩寺)に護送した旨が記されています。

また、茂原市栗生野の森川家所蔵の「上総国土気城主酒井家系」には、「是非替宗難儀に思ふ者、寺院共に他領へ逃げ行き

し也、これに依り上総七里之間法華一宗なり」との記述があり、法華宗への改宗を受け入れない僧らは寺院共に酒井氏以外の領地に移転若しくは追放されたことが考えられます。現在茂原市本納字管絃地前には、「カンゲイジ」という屋号の家や「カンゲイジ坂」という地名も残されています。



▲カンゲイジ坂(茂原市本納)

これについては、「本納町史」に戦国期の本納城付近に「寛玄寺」という寺院があり、土気方との戦いで本納方の戦勝を祈禱したという妙啓坊の存在が記されています。一方、現在当時本納から逃れたという天台宗の「歓喜寺」が睦沢町寺崎に現存し、その旨が説明版にも記されています。

茂原市文化財審議会委員

小川 力也

問合せ

生涯学習課(9階)

☎(20)15559 FAX(20)16007

文芸コーナー

池に思いを

市の西部台地
造成された緑ヶ丘
内に高久ハス池
東に3つ 名もない
池の由緒を知らない
静かに眠る池

篠田 基行

その昔 堰と呼ばれた
灌漑用の生活池
生きものの生息地
今は人影もない只の池
池は堰 多彩な夢を
ひたすら追想
俳聖芭蕉は詠む古池
モノが命を映す睡蓮
池の主よ 目覚めて…
棲みなれた住人ひとり
多彩な意味を求めて



●偶数月は「短歌・俳句・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。

●投稿は楷书でお願いします。作品・氏名(ふりがな)・電話番号を明記してください。

※提出先 〒297-8511 茂原市道表1番地 茂原市役所シティプロモーション課(11月1日号 原稿締切9月15日※)
詩は随時募集しており、どなたでも応募可能です。たくさんのご応募お待ちしております。
「広報もばらの詩」と朱書きしてください。原稿は30行以内でお願いします。

